

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり作成の報告がありました。

第 9 回 中山間地域振興特別委員会記録

日 時 平成 30 年 10 月 15 日 (月)

10 時 01 分 ~ 11 時 57 分

場 所 第 4 委 員 会 室

【出席者】 飛野委員長 布施副委員長 三浦委員 西川委員 川上委員 柳楽委員
串崎委員 上野委員 岡本委員 芦谷委員 永見委員

【議長団】

【事務局】 小川局長 新関係長

議 題

1 集落機能の維持対策について

《中間報告での論点概要・提言の方向性》

○住民の主体性

地域での話し合いやアンケートを主体的に実施し、課題の発見や解決に取り組んでいる地域がある一方で、話し合いの場がなく、地域課題の共有ができていない地域もある。集落機能を維持するための第一歩は、地域で徹底的に話し合うことであり、地域課題の共有化や将来的に組織化や事業化につなげていく徹底した話し合いの場を持つためにはどうすればよいのかといった方向性などを提言する。

●自由討議を行った。

○地域と行政の関係

住民が自分自身のこととして地域と向き合うことが重要であり、そのためには、情報提供などの行政としてのサポートが必要。合わせて、地域担当制の拡充や各支所や本庁への地域振興担当専任職員の配置などのサポート体制についてもしっかりと検討する必要がある。住民主体を基本に置きながら、地域にとっても、行政としても持続可能な行政支援の在り方について提言する。

○地域の活動体制

地域の体制づくりも必要。従来の公民館の機能拡大の是非や、まちづくりを支援するコミュニティーセンター化・人員配置も検討すべき。地域活動の主体や支援体制の在り方などについては、地域自主組織を参考に検討し、公民館の在り方と地域の活動体制の関係性について論議を深め、地域が活動のしやすい形を提言する。

○地域活動の範囲・単位

まちづくり推進委員会の設置単位は、最適なコミュニティ単位としてはその範囲が広すぎ、その最適化を図ることで地域内での話し合い、課題の共有、活動の活発化につなげる必要がある。適切な地域活動のエリアや組織をどのように整理していくのか、その方向性を提言する。

2. その他

○次回開催 11月22日(木) 13時30分

飛野委員長

ただいまから第9回中山間地域振興特別委員会を開会します。委員は全員出席です。早速議題1に入らせていただきます。

議題1. 集落機能の維持対策について

飛野委員長

9月議会で中間報告をさせていただきました。その中で、論点の内容、提言の方向性が一応示されました。これに肉付けしていきたい、そして的確な提言に結び付けていきたいと考えています。今日1日でできるとは思いませんが、しっかり論議して提言に結び付けていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

念のためにこの前中間報告した4点について、副委員長から再度読み上げていただきます。

布施副委員長

(以下、レジメの報告概要を読み上げ)

飛野委員長

先ほど言ったように、提言のための具体的な自由討議という形で進めていきたいと思えます。4つの項目の中で1項目からやっていきたいですが、事柄によっては項目が重複してくることもありましょう。その時はお構いなく併せて論議してください。

では、住民の主体性から始めます。自由討議でやっていきます。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

布施副委員長

柳楽委員に確認しておきたいのですが、柳楽委員は皆さんが地域課題を共有化していない、課題共有化のためには問題意識を持った人だけでなく地域全員が情報共有化しなければいけないということで、金城でやっておられるような小さい単位でのアンケート実施が必要ではないかと、この委員会でも結構言われています。まちづくり委員会で予算を要求する際に、課題を共有するアンケート調査等はされていませんか。

柳楽委員

私の所の自治会でも、まちづくりに関するアンケートをやったことはあります。しかしそれについてどうだったからどうしていくことが必要かということまではやってないというか。最終的にどういう結果でどのように地域でやっていかねばいけないか、という話に至っていないのが現状だと思っています。一番大事なのはそこだろうというのが私の思いです。

飛野委員長

アンケートに関して皆さんご意見があれば自由討議をお願いします。

上野委員

以前、旭の今市地区のまちづくり計画の概要を配りましたが、旭もまちづくりが色々あり、今市や和田はすごく進んでいます。和田も、災害時に誰がどこに助けに行くか名前まで決めて、それが機能して良い地域だと思う。今市でもそれに負けないようにアンケート取られて課題を出されてどうしていくかということをされましたが、先ほど柳楽委員が言われたようなこともある。また、なかなか動ける人が動かない、苦しい人がより仕事を背負っている。それを何とかして、誰でも参加できるようにしようとやっているが、まちの中心部、動く人が一杯居る所ほど一

番遅れている。和田とか都川とか人口が少なく危機感がある地域はアンケートの結果を上手く活用している。今市は、人口が一番多いところですが遅れている。アンケートは非常に良いもので、各家庭に配っていますが、目を通して真剣に考えているかどうかは分かりません。それを早く把握しなければいけない状況です。

布施副委員長

地域では作っているが、それが浸透していない、波及していない、課題は一部の人は知っているが住民全体に確実に伝わっていないということですね。

それを皆さんに共有するためには、まちづくり推進委員会が中心になるのか、それとも当委員会が出かけて行って周知伝達するのか、伝える手段についても……。

上野委員

今市地区が変わったのは、アンケートに社協の福祉活動実施計画を加えてやったために関心が増えて、色んな人が関わり始めた。今までと違う取組ができるのではないか、夢を語れるというか、今までと同じことをやっていたはだめだ、何か変わったことをしなければという雰囲気になっています。

飛野委員長

アンケートは取っても分析や実施になかなか結び付かない部分があるのかと思う。例えば今の話なら、資料は自治住民が作成したのでしょうか。

上野委員

計画は四つ葉振興会という、うちのまちづくり委員会が社協と一緒にやったものです。

飛野委員長

行政は携わっていますか。

上野委員

いません。

飛野委員長

ご意見をお願いします。

柳楽委員

いまの旭の事例について、やはりそのように持っていかれるには、それなりにきちんと課題に対して意識の高い方が中心になってされたのでしょうか。

上野委員

今市まちづくり推進委員会は四つ葉振興会と名前が変わり、できた当時から部会に毎回集まって課題を出したりしていたのですが、できるだけ、一人でも多くの住民から課題を引き出そうとして、こういうことをやり始めました。これまで部会を同じ者が長くやってきて、何も変わらないことが一番ジレンマとなり、何とかしようとその人達が本気になり始めた感じです。

柳楽委員

中心となる人がいるのといないのとの違いや、持っていき方によっても違ってくると思います。課題への思いの度合いなど。そこに何等かの助言をしていただくポジションの方が必要なのかなという思いがあります。

これは福祉の関係ですが、生活支援コーディネーターを配置されることになった時、私は、その方がそういう役割を担われるのかと思っていました。地域課題をその人と一緒になって地域住民で掘り起こして、解決に向かう感覚でいたのですが、どうもそれは福祉関係が中心という位

飛野委員長

置づけになっているようです。福祉だけでなく地域全体について一緒になって課題解決に向かっていくコーディネーターが必要なのかなと思います。地域によってはそういう方がいなくても、実際にはそういう方向へ行っている所もあると思うので、地域ごとに違うとは思いますが。

誰かリーダー的な立場の方がおられないとなかなか進まない、私も今まで感じました。アンケートを取って課題を分析したとしても、実施に移す部分がなかなかできない。指導者がいない限り前に動いていかないと感じています。私が知っている範囲ではその部分を行政の地域担当者の引き回しにより、地域住民の意見が上手くまとまって動き出した。県も同じような仕組みになっており、そこにもリーダー的な方がおられる。私が知っている好例は、そういう方がおられ、住民もそれについて一緒になってやった経緯がありました。柳楽委員が言われたように、支援やコーディネートをする人が大切ではなかろうかと思っています。

川上委員

我々の雲城地区では、各町内会ごとにやっています。今年11月からまた新しい町内で小さな里づくりが動き始めます。21の内の5つ目です。来年は6つ目も動き出します。今下準備をしています。町内の方々が自主的に活動を開始され、行政もまちづくりも自治会もいずれもバックアップという形で動いています。何か問題があった時に手を貸してくれる体制です。

リーダーがリーダーがと言われましたが、外から来たリーダーでは難しいこともあるので、町内のリーダーを作るのが大事だと思います。そのためには皆さんで一度集まって話し合い、その中からリーダーをいかに見つけ出すかが大事です。コーディネーターや地域担当制は、あくまでもサブです。でないと地域担当制の職員は過重労働になりかねないので、やるとしてもあくまでサブで、お手伝いする分だけで良いと思っています。よろしければ正副委員長に見に来ていただければご案内します。どういう形で動いているかお分かりになるかと思います。

飛野委員長

21というのは単位は何ですか。

川上委員

雲城地区の町内会です。21町内。そのうちの5つ目が動いています。

飛野委員長

地域によっても温度差があるわけで、やらなければいけないと思っている所、やりたい所、うちがいいという所があるかと思っています。この部分を拾い上げていかないといけない。

川上委員

外回りを引き上げていく必要があるのです。真ん中はまだ自分らの問題としていないのです。周辺から問題意識を伸ばして動いていくと、真ん中の方がいなくなる。

飛野委員長

この事例に浜田自治区を当てはめるともう相当大変なことになって、その中で困っているから取り組もうとする所がどれだけ出てきて、どう拾い上げるか。

川上委員

今は国府は動けてないのかな。三隅も弥栄も動いています。ああいう所が広がっていくのが大事。それがこの特別委員会の動かす部分ではないかと私は思っています。時間がすぐというのは難しいかもしれないけ

岡本委員

ど、その根を作る、そのための努力をするのが我々だと思っています。
上野さんにお尋ねしたいのですが、上野さんの活動で女性の参加があるというお話がありました。例えばまち中と郡部で共通しているかどうか聞きたいのですが、若者の参加がなくて継続できないのです。お母さん方や若い人をどう呼ぶのか。リーダーも必要ですが、次世代の若い人を参画させないと、ある年まできたら終わってしまいます。抑えるべき点があれば教えてください。

上野委員

旭はまちづくりで若いお母さんの孤立を防ごうというキャンペーンをやりました。刑務所ができた関係で子連れ若い方がたくさん来りましたが、まちに知り合いはおられず家にずっと居る。そういう人を孤立させてはいけないと、子育て中の奥さん向けの企画を色々やりました。もうひとつは運動会等も、南光台以外はお年寄りばかりで若者もほとんど居ない、そういう状況で昔と同じように運動会しても上手く回らないから、若者ばかりの南光台とお年寄りばかりの所のチームを振り替えたりしました。公民館も母子を引っ張り出す取り組みをしています。今のところ何となく上手く循環している状況です。

ただ、若い男性刑務官を引っ張り出すのはなかなか難航しているので、そこを何とかしていくのが目標です。若い奥さん方からは、昔に比べたら地域が変わるくらい色んな力を貸してもらっています。

岡本委員

大変良く分かりました。住民主体という根本の中に、若い人をどのような形で入れ込むのか、明確に表現をしておいた方が。この文章を見ても若い人の姿が見えないし、リーダーをクローズアップしすぎると取り組む方々が変に意識するから、それに代わるような言葉を合わせてこの中に打ち出すことが必要なのだろうと思います。それは中山間地のみならず、我々市街地においても、次世代にどうバトンタッチするか、彼らをどう参画させるかが大きな問題ではあるので、それも提言書に含めたいのではと思います。ご検討をお願いします。

永見委員

若い後継者やリーダーが見つからないというお話がありました。アンケートも後の段階が進まない。それにどうしてもまちづくり組織の中にはいつておられる方が動いており、若い人が参画されない状況もあります。今福でもやい市を土曜に開催しています。もやい市は年に1回土曜夜市をやります。その際どうしても若い人の力を借りないといけないという話も色々出てきて、若者が今年、イベントや活動に協力をする「若助」という団体を立ち上げたばかりです。多い人数ではありませんが若者が参画してくれる母体できたことは大変歓迎しています。

三浦委員

アンケートは、やって終わりになることが結構あります。合意形成のためなら賛成と反対が何パーセントずつかが把握できて終わりでも良いと思いますが、ここに書かれているアンケートはそういうものではなく、自分たちが何を思っていてどういうことが必要なのか、要は主体性を作るためのアンケートですよね。そうなると一緒に考えていくプロセスが大事で、場を設けないといけません。そのアンケート内容を考える

時には行政のサポートがあってもいいでしょうし、数名は活動してくれる人を抽出しないと、行政主導でどんどんやってしまうと一見主体性があるように見えて結局は行政のやりたい方向への合意形成のものでしかなくなってしまいます。そこを意識しながら提言をまとめておかないと、意図とはずれるのではと今感じています。

柳楽委員

先ほどコーディネーターという言い方をしましたが、自分たちの課題を共有するための場づくりの部分が出ていない所が多いと思うので、それを誘導するための役割が必要だと思っています。あくまでもその役割は方向性を作ってあげるだけで、具体案を出す立場であってははいけないと思っています。

川上委員が先ほど、2 1ある町内会のうち3つ目が新たに始められるとのことでした。福祉関係で言ってもそうですが、一番話が早いというか、分かりやすいのは町内会単位かなと思っています。防災だったり避難行動だったりに関しても、町内会単位が一番事情が分かっているし、地域課題も分かっているの、そこからの積み重ねも大事ではないかと思っています。まち中は町内会がない所もあるのでしたっけ。

岡本委員

ありますが、働きかけは各々の所でやりつつあります。そうしないと全体が付いてこない所が出てしまうので。

三浦委員

主体性を作っていく時にリード役やまとめ役も大事ですが、財源も大事だと思います。今はまちづくり交付金があって、やりたいことにはお金がつくシステムが制度上ありますが、一過性で終わってしまう事業も結構多く見られます。地域がやりたいことを提案するのは良いですが、どういう事業をやっていくのかをしっかりと検討していかないと、執行部の施策とリンクしないというようなことが場合によってはあるのではと思っています。お金も併せて考えないといけないと思います。

岡本委員

各町内の全員が来れば話し合いの場とするのか、半分なのか、3分の1なのか、5分の1なのか。要は集まれば話し合いの場と考えるのかです。私の町内は約40世帯ありますが、話し合いの場に来るのはせいぜい10名、多くても3分の1程度です。会議等すると、委任状が出されているので2分の1以上あるのでOKですよとなる。皆さんの所での「話し合いの場」というのは、どの程度なのか。

柳楽委員

この委員会でも以前出たと思いますが、常会をやっている所はほとんどの世帯から出られると思っています。高齢独居世帯以外は100パーセントに近いくらい、毎月1回の常会は出ておられると思います。

これまで視察させていただいた先進地の例で言うと「来れない人の所へは出向いていく」ことに力を入れられていると感じます。ただ、すごく強い思いがないとなかなかそこまでの行動はできないと思うので…それができるのが一番良いとは思いますが。

岡本委員

皆さんの所では、例えば集会所のように話し合う場は確保されているのですよね。

川上委員

今の、出かけていくという話。確かに集会所はありますが、公的に作

られた集会所や交流センターばかりではなくて、町内会が単独で作った物もあります。作ってもらったのではなく、自分らで作ったのだという意識を持たなければいけないところもあります。

雲城は、おでかけ公民館というものを持ちながら、小さな里づくりの一環としてやっています。来れないならその町内会へ行こうという話もしつつあります。からめ手のやり方は一杯あるので、工夫が要るかと思えます。公民館や集会所もなくてはならないのではなく、昔の持ち回り常会のように家を回っていく常会をやっている所もあります。色々な手を考えて持っていく必要があると思っています。

岡本委員

持ち回り常会、一軒の家に何人入りますか。入らないですよ。集金常会も旧浜田市は、振り込みが変わるからと全部潰してしまいました。我々は集まる場所がありません。集まるなら浜田公民館に言ってくださいとなると年寄は来ませんよ。人数を限定して班長が来れば良いというのであればそれでいいのかもしれないけど、どうなのですかと聞いているのです。

柳楽委員

まち中はそれを進めるのが難しいだろうと思います。集まる人が少ない状況だと思うので、こちらから出向くことで成功している所は一軒一軒回って、アンケートもその場で回答をやってもらうようにされています。しかしそれは地域的に何十人かしか居ないような過疎な所なのでそれができるというのもあったとは思いますが。単位自体をどの程度で考えるかも、大きな部分かと思えます。

岡本委員

今は中山間地の話をしているので、中山間地の皆さんの実情はどうかをお聞きしたいのです。弥栄などはどうなのですか。

串崎委員

住民の主体性を導き出す、やる気を出すにはどうすれば良いかは大変難しいことです。しかし一番難しいのはリーダー育成で、欠かすことはできないと思っています。今まである団体をいかに維持していくかが一つ。それが高齢者クラブ等もあるかもしれませんが。ある団体を維持する。弥栄には集金常会がありますが、それをいかに継続するかが大事だろうと感じています。

若者の参画については、まちづくり委員会のメンバーにも問題があると思っています。弥栄は特に若い人が入っていらっしゃいますが、若い人は若い人を呼びます。仕掛けもあるのだろうと思います。産直市の「や市」で中古車を100台展示して若い人が集まりましたし、ダンスステージの企画には若者が沢山来られます。中・高校生もおられました。感覚的に若いメンバーが仕掛けを作れば、若い方が来るのだと思います。

芦谷委員

地域づくりや市政への住民の参加意識だと思います。私は周布・美川地区ですが、行政の縦割りというのが、自治会グループ、まちづくり委員会、公民館、地区社協などがあります。これが銘々でやっています。本当はそこへ向いて自主防災も消防団もPTAも入って、地区で話し合いをして課題を導きだす。各団体が持つておられる課題を突き合せばその地区の課題は出ると思います。悪いことにその向こうに見えるのが

行政なのです。行政が銘々でされているから。行政が住民自治をするような気持ちを合わせてもらってやっていけば、連携できると思います。

当委員会で提言していった、今の地域づくりの縦割りを変えるのが一つだと思いました。

飛野委員長

二人の方から既存団体の話がありましたが、この団体自体が解散したり消滅していつている部分もあるかと思っています。その辺をどう捉えていますか。

芦谷委員

例えば地区の8割が老人でありながら老人クラブが育たないというのは、町内会・自治会で老人クラブのグループ、女性グループ、若者グループそれぞれ仕分けして運動していけばいいと思うし、そういう所が足りないと思います。

リーダーの人材はいないかもしれないけど、いやしくも長い年月にわたって地域の運営を、冠婚葬祭も含めてやっています。問題は舞台の上でパフォーマンスする人の出番を作ってあげれば、人材はあまたあると思っています。

また、若い人の発案で何でも良いからやってもらう仕掛けをね。おじいさんおばあさんが上から目線で「若い者がやれ」ではなかなか今の人には合わないと思う。ぜひ若者を主役にお願いします。

飛野委員長

ほぼ一時間経ったので、休憩を挟みたいと思います。11時再開とします。

[10時50分 休憩]

[11時00分 再開]

飛野委員長

再開します。今日は一応12時までを予定しています。よろしくお願ひします。

引き続き項目はそのままで継続したいと思います。地域で徹底的に話し合うことが必要だという部分の中で、岡本委員から「集まりに出席する人が少ない」という話がありました。郡部も出てくる人はいつも決まっている。なぜ出てこないのかも分析していただけたらと思います。

岡本委員に聞きますが、集まりにいつも出て来られる10人はどういう関係の方か、出て来られない人はなぜ出て来られないのか、ご意見があれば。

岡本委員

出て来られない方はほとんど高齢で、シングルのお年寄りばかりなので、80歳を超えられたらほとんど出て来られませんね。出てくるのは町内会長や会計を受けてもらっている人で、4班に分けているので各班の役員2人ずつプラスアルファで10人くらいというのが現状です。

飛野委員長

休憩中に西川委員との立ち話の中で、関心がないから出てこないのではという話が出ました。しかし実際は何か困っているのは確かだと思います。何かをしようという気持ちはあるけど実際には動かない、という観点から何かありますか。

岡本委員

お年寄りの話をしましたが、関心がないというよりも歩いてそこまで行くのも大変だと、家でおとなしくしていた方が良いという話。焼肉やったりするときも、テント張ったりシート引いたり準備して声をかけるんだけど、それでも半分くらい。とても歩いては行けないという話です。私が考えるに地域をまとめるには、防災で括っていくしかないのだろうと。防災の中でその人たちに支援が行ったら動けるようにしておいてもらうとかして、こちらから働きかけていくように彼らにはしていかないといけない。支援する側としては、一人の人に二人付いてますから、それをもっと意識しないといけないと思いました。

難点は若い人の参加がないこと。親が出ているから良いというものもあると思います。

西川委員

出てこない人は関心がないというか、お困りごとが……。お困りごとが共有化されていないからだと思います。アンケートも困り事を共有化するために炙り出すためのものが必要なのだと思いますが。

この委員会としてどういう単位を話していくか。今日の4番目の所がまずないと、適切な地域活動のエリアや組織、何をするか決める時にどのくらいの規模で考えるか。各々で考えるならそれでいいですが、提言を求める時に各困りごとについてやるのか、もう少し大きな、例えば雲南でやっているような小学校単位で括ったり、できれば一番良いのでしょうか。範囲をどう考えるか、どう話していくか。リーダーももちろん必要ですし、悩んでいます。

芦谷委員

前回の議会報告会で国府に行きましたが、若い女の人が「自分宅の近くの公園か何かを整備したい」ということでした。地域の日々の色々な要望や意見をぶつける場がきちんとあれば、普段思っていることを行って言おうと思うから会議に出ようと思うのだけど。議会も是非執行部側に、住民の意見や地域要望を受け入れる窓口を位置付けていけば、そこにぶら下がって行って地区の要望がまとめられるような仕組みができると思います。今は、話をしなさいと言っても何を話すのかということに、多分なると思います。それは地区の人たちで自助共助でやる、できない部分は公助でやるという流れがあるので、地域課題を抽出して共有化して課題解決に持っていく流れを作りあげていくことを提言すれば、そのためには当然それを受け入れる団体がしっかり構えをすれば良いと思います。

布施副委員長

それと西川委員が言われた、単位ね。町内はあるけど町内でも言える町内と言えない町内があるから、一つの単位として受け入れるような組織づくりも提言していかないといけないのではという。

飛野委員長

①についてやっていますが、先ほどからも柳楽委員、西川委員から出ました。4番にも繋がっている部分もある。それだけでなく全部繋がっている部分があります。1番に拘るわけではなく関連部分は大いに論議していただきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

三浦委員

金城の事例も参考にお伺いしたいのですが、皆何を目的に集まってい

- るのですか。集まって何を話し合っているのですか。
- 永見委員 集金常会ですが、集金だけではないです。行政からの連絡事項や、中山間地の直接支払いの関係で環境美化や共同ほ場の取り組みを協議して進めないといけないこととか、直接支払いの確定申告関係、多面的機能の交付金事業の関係、今福保全の会というのを立ち上げているのですが、各町内会に幹事さんがおられて、町内会の事情もそこで報告され協議されます。道路の草刈りもその場で話し合います。
- 三浦委員 その順番が、何かの話し合いをすることが絶対必要なので、そこに集まるから集金をしているのか、集金をするために皆集まるからその時に色々な話をしているのか。
- 永見委員 後者です。昔から集金常会はあったので。
- 三浦委員 「ここに人が集まらなければ駄目だ」というのがあって、人が集まるからそこでやろうという格好がいけると思います。集まる理由があるので集まってくるのだと思いますが、他の所はどうですか。
- 上野委員 旭も言われたことと全く同じです。行政区の集まりをやって、その中で年間計画を立てます。忘年会をいつやるか、集落の旅行をいつするか。また、集金常会は毎月 27 日と昔から決まっているので、それをなくしてしまったら人の繋がりがなくなるから残しましょうということで、前のように給食費等の集金はしていませんが、お寺の門徒からの集金をついでにやったり、議会だよりをそこで配ったりするために皆がそこへ集まる。そこで思い思いのことを皆が出していく。その繰り返しを毎月しています。それがなくなったら集落が分解してしまうのではないかと思います。
- 永見委員 大体集金常会は各町内によって日にちが決まっていて、そこには必ず出席しないとという格好になっている。
- 三浦委員 ルールになっているのですね。
- 岡本委員 集金は毎月やるのですか。そんなに徴収するような金があるのか。
- 永見委員 僅かな金ですよ、町内会費だとかお宮の積立金だとか、月によっては赤い羽根共同募金の集金があるとか。そういうのをその場で出します。
- 岡本委員 うちは町内会費が 500 円だが、段々面倒くさくなって年間 6000 円を一括で出すようになった。集金常会にならなくなってしまったのです。赤い羽根も町内会費から一括で払ってくれと言われて、話にもならない。
- 西川委員 浜田から集金常会がなくなって久しいので知らないのですが、金城・旭・弥栄はまだあって、全世帯が漏れなくやっているのですか。
- 柳楽委員 町内会に入っていれば。
- 西川委員 入らない人も居るのですか。
- 柳楽委員 中にはたまにおられます。
- 西川委員 例外的な人ですね。すごいではないですか。
- 串崎委員 日にちを決めて集金するのだけど、その集落機能が維持できなくなった限界集落がぽつぽつ出てきたから、それをどうしようかという話。
- 西川委員 その単位が、町内会単位だと。

串崎委員

そう。

芦谷委員

日脚の8町内だけは未だに集金常会があります。他の周布エリアはありません。集金常会をしてみて、良いという評価は給食費。未納者いません。

永見委員

皆の手前があるから払わないわけにいかない、というプレッシャーがある。

岡本委員

水道料は地域で集金して納めると、協力金みたいなものが入って町内会費が溜まっていたのです。それはもう必要ないということでなくしてしまった。

三浦委員

先ほどの話を伺うと、集金をするという明確な目的があるから皆が集まる場所があって、何か皆で考える共通項みたいなものがないと出てくる理由にはならないと思います。まちづくりについて考えようと言っても、今のままでも良いとか、必要性を感じない人にとっては、無理やりやるものでもないと思います。プロセスを踏まれて、まちづくりについて考えよう、それを目的に集まろうという事例があるのなら、そのプロセスがどうだったのかをお伺いしたいと思います。集金することではなく、まちのことを考えようと言って集まるのが町内会単位でできている事例があるのなら、どうやってそうなったのか。

永見委員

うちらの場合は各町内ごとに防災マップを仕上げる段階で、各町内会から出ているまちづくり委員会の役員が、そこで協議した内容を町内会に持ち帰って、防災マップを仕上げる段階で集まった事例はあります。

三浦委員

防災だと他人ごとではないという意識があるので、どうしようかということをも自分も確認したいし、それについて協力する理由も比較的、まちで何か活動しましょうというよりはかなり高いモチベーションも持てると思います。何かそういう入口を作った方が分かりやすい気もします。それが防災だけなのか。まちづくりに対して主体的に関わるために皆で集まりましょう、と言っても難しいではないですか。

川上委員

それはあり得ない。

三浦委員

ですよね。そうすると芦谷さんや西川さんの話になりますが、理由や、集まる目的をセットしないと。こういうことは住民で主体的にとか、自助・共助でやるべきことだ、みたいな目的があってそのためにこういう単位で皆で話をしていくべきだ、みたいなことを話のきっかけに作ったらどうかと思ったのですが。

川上委員

まず雲城のことだけ先に言います。元々は中山間地の問題を何とかしたいということで、十数名が集まって話したけどまとまらなかった。ボヤっとした感じで。それなら全体向けにアンケートをしてみよう、それも全体をしながら、なおかつ各町内ごとにまとめて1回、問題点を取り上げようではないかと。アンケートだけでそれをやりました。アンケートの結果を地域ごとにまとめて、中心からどれくらい離れた所でどういう問題があるかを地域の方に見せて、自分たちの問題として再度取り上げていただきたいと。まちづくり委員会、公民館、各地からの代表とで

企画会議をやりました。問題点を話し合うためにどうしたらいいか、どこで、いつ、誰を対象にするか等を話し合いました。そこで、雲城全体では大きすぎるので、町内会で小さな里づくりということを話し合いました。そして町内会でアンケートの内容を見ながら話し合いをしました。多いところは半分以上の人数が参加されました。どうも真ん中に集会所があるからその周辺の空いている田んぼを綺麗にして、そこにレンコンを植えましょうとか、色んなことを考えたら子供が集まるのではないか、大人も集まるねという話をしました。実行するまで何度も話しました。それが発展して、うちの町内では集会所を境にして上下に分かれて、もう動き始めています。お金がないと動かないという話がありましたが、これはまちづくり委員会からのわずかのお金、何万円です、それを上手く活用してあとは自分らのボランティアでやっています。人がいて、集まることができて、場所があれば何とかかなりそうだと思います。あとは企画会議を何度もするのです。同席する行政職員は、話し合いの中で補助金や交付金が使えそうな点を見つけてアドバイスします。

集金常会は、旧郡部はどこもやっていると思いますよ。

三浦委員
川上委員

ただ、一部ではもうそれができなくなっている。

なりつつある所もある。特に限界集落に近い所では難しくなりつつある。その時にはそのお金を集めるために誰が来てくれるか、という話も起きています。

芦谷委員

集金常会をして話し合いをして、意見を出してもらって、これは市役所に言おうとかいったような、共有したり前に進めるような話もあったりするのでしょうか。

柳楽委員

例えばその道路について役場に言って、というような話が出れば出ます。ただそれは話の流れで出てきたりするもので、課題を大袈裟に話し合おうという空気で始まるわけではないです。

芦谷委員

公助の部分で、市役所がやってくれということを手を挙げてもらうのと、ごみステーションの修理、溝掃除、木を切るといった自分たちでやる共助をするのに、行政がメニューを作って共助のための助成金を拡充して、そこで地域で話し合いをしてもらってそういったことをすれば、一つの誘導策にはなるのではないかと。

川上委員

そういうものに使える基金があれば工夫はできるだろう。よく地域の皆で話し合って使い方を決めてくださいといったお金があれば使えるでしょう。

芦谷委員

まちづくり総合交付金もメニュー化して、あとは町内会・自治会で判断してやってもらうということです。あまりお仕着せにせず。

川上委員

良いと思います。

柳楽委員

確かに補助金はすごく大事なものだとは思いますが、いつも話に出てくるのですが、その補助金があるからそれを使うために何か考えよう、みたいなパターンをよく聞きます。それだと意味がないと思うので、こういう課題があるからこれだけのものが必要で、その中からどれだけ出

して欲しいという形の補助金にするのが良いのか、端からこの金額が使えますよという形の方が良いのか、そこは疑問です。

三浦委員

今は二段階になっているのですよね。基礎額みたいなものがあって、活動の提案によって上乘せという。

柳楽委員

それはまちづくりに出ている部分ですよ、町内会ではなく。

三浦委員

そうです。あれも、委員会だけでなく同じような活動をしている町内会がありますよね、あれは目的と違うなという所があって、別にまちづくりに限定しなくても準ずる活動をしている団体には同じように交付通知をすとか、そういう所は緩和しても良いような気がしています。

また、まちづくり総合交付金を使って何かをする意思決定をしていくプロセスを専門家にアドバイスしてもらう時の、専門家派遣にお金を使われた所も結構あるのではないですか。それともやはり事業ベースなのですか。それが難しいのであれば、総合交付金を使って計画づくりを専門家派遣のサポートしますよ、みたいな。

川上委員

交付金は、まず計画ありき。

三浦委員

でもその計画を作ることができない、というのがこの課題にも出ているわけですよ。

川上委員

計画が作れないのは、中山間地部分ではなく平地部分の、自分らに問題ないという人たちの集まりの所だ。市内の町内会に対する交付金は出されているのですか。

岡本委員

町内会に対する交付金ではなく、町内で盆踊りをする等、事業に出ているのであって、単純に町内会に出ているわけではありません。田舎は町内会であれば出ているということか。

川上委員

申請している所は全部出ています。

(「申請すればでしょう」という声あり)

岡本委員

申請内容が、活動を伴っているから。私の認識ではそれで出ていると思っている。町内会があるから申請しているのではなくて、町内会が活動しているから。

川上委員

活動計画を出すから。

岡本委員

それは当然。町内会にあらかじめお金が振り分けてあるということではないと私は思っています。

川上委員

ただ、面積ベースと人口ベースとがあるので、その辺りは配慮してあると思うが、まず計画ありき。計画は作ってある。作らないと絶対出ないから。

岡本委員

その計画内容が、四角四面ではなくて毎年やっていることを我々は出しているのであって、その部分については、私たちは基礎の部分でやっています。

芦谷委員

まちづくり総合交付金にも言えるのだが、まちづくりの委員会も含めてバラバラでしょう、大きさが。ある程度地域のまとまりの方が動きやすい。整理をしていかないと、地域がしたい放題。中学校区でも良いというのもあったりするから。実態の地域では末端まで浸透しにくいし、

川上委員

活動しにくいと思います。かといって小さければ良いという意味でもないのですが。周布でも大小あります。仕組みや制度を運用するなら行政がきちんと整理していかないと。組織としてそれで良いのかと思います。

元々公民館単位または小学校単位でまちづくり委員会を作ってください、そこにまちづくり総合交付金を出しましょうという話だったけど、なかなかそこまでまとめることができないので、旧町内会単位で出すべきだろうとなったと思います。

芦谷委員

まちづくり推進委員さえ組織率がまだ6割くらいだったと思います。10年くらいして100パーセントに。それではなかなか。そうなるところで議論するのもどうなのかなと思って。

串崎委員

中山間地は言われたように集金常会というルールで決定してあって、日にちまで決まって半強制で出ている状況です。せつかくあるので仕掛けを作らないといけないと思います。この集落は何に困っていて今後どのような対策をしたりとか。そういう話は確かしたことないので、行政と併せながら仕掛けづくりで集落の話聞く。弥栄の場合は地域基金でかなり集落に払っています。私らも一杯貰っていますが、それがすごく面倒くさい。しかし、せつかく組織があるので、仕掛けを作って、今後10年どう思われますかと内容を聞くことが大事だと思いますし、もう一つはそれを抜きにして、話し合いの場というサークルづくり、要するに魅力がないから集まらないではなく、好きなもの同士月に一回集まって色んな意見を聞いて、賛同する方はどんどん抜いていきながら人材を捕まえての話し合いというのが大事かなと思っています。

西川委員

常会すごいと思います。それを使わない手はないと思います。月に一回決まった日に全員集まるんでしょう。常会で集金するにあたって行政にインセンティブはありますか。町内で集めるから補助金だすとか。

串崎委員

それはない。ただ行政連絡員会議をするので、その方は集落に帰って説明する義務があるので。今たまたま毎月と言いましたが、弥栄でも少し中心部は面倒くさいから年に2回という所も出てきています。まだ8割は集金常会をやっていますが、中心部でU・Iターンの方が多いう所はなくなっている所もあります。なんとかそういう所を消さないということで、一緒になってするべきだと思います。

西川委員

ぼくらの所は行政連絡員さんがお金貰ってやっていますが、年に2回集めて、総会は1回しかありません。市報は分けておられますが。常会、感動しました。

三浦委員

常会の時に5年後10年後をどうするのか、こちらからの問いかけに対して誰かが話をする機会や時間というのはありますか。

串崎委員

あります。今日の集金常会の後で30分1時間話をしますとって自治会長が。

三浦委員

それは自治会長が、こういうことをそろそろ話しておかないといけないということで。

串崎委員

そう。その自治会長も温度差があります。人脈のある方ない方おられ

- るので、そこの仕掛けですよね。
- 三浦委員 それは行政から、向こう10年の地域のプランを作ってくださいとお達しが来てやるのではなくて、自治会長の裁量でやるのですか。
- 串崎委員 多分行政からそういった話をしたいのだということであれば、蹴りませんよ、分かりましたということ。難しい話をすると皆嫌がるので、簡単に話をします。せっかくある機能なので有意義に使うという形です。
- 三浦委員 計画づくりもそういう所で話をしながら、そこから出てきたことを汲み上げて各地域の活動計画を作るのですか。
- 串崎委員 それがベストですね。
- 川上委員 雲城のまちづくり委員会は各町内会の会長さんが参加されています。町内会の会員さん宛てに問題点を投げて答えを出していただく形にしています。町内で行事をする時はまちづくり委員会の金を使って案内を郵送で送ります。
- 三浦委員 ダイレクトメールが行くんですね。それなら参加率は高くなりますね。
- 川上委員 必ず行きますので。常会でも必ず行ってくれます。
- 芦谷委員 その前に地区社協とか消防団とか、自主防災会、公民館、色んな所に皆関わっていますか。PTAとかも。
- 川上委員 もちろん。この下に、PTAなんかはあまり参加してくれないけれど一応作ってある。
- 永見委員 まちづくり委員会の中にそういう団体が皆所属しているということですね。
- 川上委員 そうしましょうということでしたので。
- 芦谷委員 私らは美川、長浜、周布等見るけど、大体銘々です。連携が取れていないと言っても過言ではないですね。各団体が活動しているのは知っているけれど、銘々でやっているという感じですね。
- 川上委員 社協の連絡とか防災の連絡とか、基本的に常会の中で全部連絡します。
- 布施委員 もう仕組みづくりができているんだね。
- 川上委員 金城は町内会をまた分けて班を作ってされているはずですよ。
- 飛野委員長 休憩後に、人集めをどうすべきかというところからお金の話まで色々な話が出ていますが、集金常会の話がでてから随分また、まち場と郡部の温度差が露呈した気がします。まち中で人集めと、郡部の人集めは明らかに大分違う部分があるのではと思っています。しかし、必ず郡部も100パーセント集金常会があるわけではない。割合も調べる必要があるかと思えます。そういうシステムを取ってない地域については、まち場と同じように郡部も人集めできないという課題もあろうかと思えます。とりあえず郡部については一部を除いてあまり大きな課題ではないと捉えるべきなのではないでしょうか。
- 三浦委員 それができなくなっているという現状があることを踏まえれば、既存の境界という仕組みを上手く活用しながら、その先のことも少し踏まえた提言内容になっている方が良いような気がします。
- 飛野委員長 まとめではないので私も発言しましたが、人集めに関して郡部はもう

良いのかなという部分があったのでお話したのですが。このへんは根本的な話になろうかと思っているので、まだ論議していく必要があると私は思っています。先ほどPTAが出たり消防団が出たり色々ありましたが、例えば私の地域だと5年に1回、地域計画を策定して更新しています。どんな組織を作って何をどうしてやっていこうかという計画です。それを作ってもなかなか動かないという課題もあります。川上委員が言われた内容は我々も同じだと思います。地域計画があったり集金常会があったり、良い所をしっかりと掴んでもうすこし議論してみたいと思いました。

論議は尽きませんが、今回は結論付けるつもりはございませんし、まだ時間がかかるということも分かっています。また次もこういう論議をしていきたいと思えます。今日の所はこの辺でと思うのですがいかがですか。

小川局長

話を聞いていて、話し合いのきっかけづくりをどうするかというのが、集金常会だったり防災だったり色々ありましたが、前に川上委員からもらった雲城のアンケートが結構良いなと思っているのです。アンケートをまだやっていない所は持って入って、それを、アンケートを元に住民にフィードバックして全員が集まった時に話をして、こんなことがありますねともっていくのが話し合いのきっかけになるかなと思ったのがひとつと、範囲の話で、各まちづくり推進委員会の範囲が広すぎやしないかという話があつて。僕の頭にあるのは三階のまちづくり委員会。実際は三階小学校区でやっているけど、昔の小学校区別でいけば佐野は佐野で、後野は後野で元々動いておられる。例えば自分の田舎の話で行くと、この前、美川西の、田橋・横山というところの敬老会に行ったのですが、そこで話をしたら、あそこは美川のまちづくり推進委員会とは別に、お金はある程度流れてきてはいるのだと思えますが、普段の活動は田橋・横山だけで動いているそうです。敬老会を続けていきたいという話も出ました。実行委員会に各町内会長さんが出ているけど、結構みな若いです。世代交代のために若者を出させて、それらが一生懸命やっておられます。ここで活動しているようなものも全部まちづくり推進委員会に包括したみたいなので、ばらしていく必要がある気もしている。昭和30年代の小学校区くらいの小規模単位で活動したほうがやりやすいといったことはないのですか。

上野委員

我々は公民館単位でやっています。結構小さい単位だと思うので動きやすいです。

布施委員

浜田市内の中でも浜田の場合は、公民館でできなかったから小学校単位に下ろしました。三階も聞くと、広いから防災にしても山はがけ崩れ、川沿いの町村は水害と、被害が全然違います。三階ネットワークづくりの防災については、長見と三階は一地域、竹迫と野原は一地域、相生と河内は一地域ということで、防災は共通しているけど取り組み内容は全く違います。ただ、計画書を作るのに自分らが今までやってきたことを、

まちづくり交付金を貰うために難しい書類を作るのが非常に面倒だと言われていました。浜田市内の方皆そうだと思いますが、町内会長や自治会長は長くても2年ずつで交代して、交代する際にまちづくり推進委員会の連絡事項がうまく伝わっておらず、初めて聞くようなことをやらされるから、次に回る方が拒否されてリーダーを継ぐ人がいないと言われます。

旧郡部の町内会長の任期はどれくらいですか、また、認めればずっとおられるのかどうかを確認しておきたいと思いました。

川上委員

私の町内の町内会長は1年間、次の年は副会長、その次は会計。3年です。常に知っている人がいるようになっています。現町内会長は40代、副会長が51、会計も40代かな。一番良い方法だと思っています。

布施委員

強制的ではないのでしょうか。

川上委員

半強制です。しかし嫌でもします。きっかけづくりをしてもらって良かったと後で言われます。

上野委員

うちも全く同じですが2年交代。集落も各家に全部役割がつきます。絶対逃れられないというか、自分から進んで。

串崎委員

私の所は選挙で2年ごとです。私は会長に当選したのですが、議会があるから副会長に格下げしてもらいました。予算は違います。1年交代もありますし、やり方も違います。

永見委員

うちは町内会と5つに分かれています。そこから班長さん、組長さんを選考委員会で決めます。

飛野委員長

色々でました。時間も迫ってきました。局長から何かありますか。

小川局長

(「ありません」という声あり)

議題2. その他

飛野委員長

その他何かございますか。事務局から何かありますか。

小川局長

自走式草刈り機のデモの話で、また案内があると思います。

飛野委員長

皆さんよろしいですか。

(「はい」という声あり)

では次回開催予定の協議です。

《 以下、自由討議 》

次回開催は11月22日13時30分ということに決しました。引き続き今日できなかった部分の論議をしていきたいと思います。今後ともよろしくをお願いします。今日はこれでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

ではこれをもって第9回特別委員会を終了します。

(閉 議 11時57分)

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会 委員長 飛野 弘二 ㊞